

# 瑞医

世界に羽ばたくMEDIPORT

2012.9. VOL.19

contents

極 研究&教育  
Current topics in research and education

人 時の人  
People in the news

技 最新医療の紹介  
Latest developments on the medical front

和 お知らせ  
Information

## 城 病院長就任のご挨拶

病院長就任にあたって 城 卓志



城 卓志

名古屋市病院局長に就任された山田前病院長の後任として、5月1日より病院長を拝命いたしました。当名古屋市立大学病院は、平成18年に独立行政法人化して以来、大学病院としての理想を追求しつつも、自立した経営をめざしてきました。これまでの諸先輩方の絶え間ないご努力によって、現在ではほぼその目標を達成していますが、当院として、今後とも充実させなくてはならない救急と教育、手術室のさらなる効率的な運用、また、運営交付金が減額されるうえに、今後新たに発生する経費の問題など差し迫った病院経営・運営上の課題も抱えています。また、決して手を抜くことのできない医療安全の確保もすべてに優先する課題として、今後さらに重みを増してくる状況にあります。

私が病院長に就任して以来、既に約4か月が過ぎました。上述したようないろいろな問題に迅速に対応していくうえで、三島、芝本、平岡副病院長をはじめとする多くの病院スタッフの働きには大変感謝しています。また、名古屋市立病院で連携を深めつつある東部医療センター、西部医療センター、緑市民病院のいずれもが最近目に見えて発展しつつある事実は、大変心強く感じています。当院として現在は、主に医師の派遣等を通しての提携を強めてきましたが、今後は医師等の研修、臨床研究や治験、新しい医療の創出などにも連携を持つことができれば、私たちの新しい可能性が見えてくるように思っています。病院局ともこれまで以上に連帯感を深め、3病院と当院の808床を合わせた2100床超のグループ病院として医療のみならず臨床研究活動を発展させることができると考えています。

病院長としての当初より、日ごろ大切だと考えている事項を、以下のごとく4つの基本的方向性としてまとめ、所信として明らかにさせていただきました。

- 1) 多職種の連携とチームワークを基軸とした医療安全管理と病院運営
- 2) 名古屋市立大学病院の特性を生かした病院経営・発展
- 3) 救急と一体となった教育体制
- 4) 名古屋市立病院との連携を活かした地域医療への貢献

この中には私の夢や希望、そして本当にすぐにも手をつけなければならないことも含まれています。私の任期中にすべてを達成することは困難ですが、少なくとも私はこのような方向性をもって、今後の職務を果たしたいと考えています。

### “瑞医の由来”

「瑞医(ずいい)」という言葉は、瑞穂で育った医師が心の支えとなる名市大、「瑞」にはめでたいことという意味があるので新しい門出の広報誌にと考えました。新しく発足した同窓会と一体となって歩むことを目的に、その名前「瑞友会」と相呼応しています。サブタイトルの「MEDIPORT」は、「Medical」と「Port(港・空港)」をかけた造語。名市大を最新情報を発信する拠点とし、卒業生が社会・世界へ出発し、またいつでも戻ってこられる港であるようにとの願いをこめています。

### 連携病院

#### あま市民病院

当院は海部東部の中核病院として地域医療を担っています。平成22年3月に甚目寺・三輪・七宝の三町村合併であま市に移行するのに伴い、公立尾陽病院からあま市民病院と名称変更を行い現在に至っています。あま市は名古屋市の西隣りに位置し、名古屋市のベッドタウンとして発展しており、人口約88,000人を擁しています。名古屋市の中心から公共交通機関を利用し約15分という立地条件にあります。院長の赤毛をはじめとし副院長の神谷先生など、名古屋市立大学病院関連の先生もたくさん勤務されています。また、平成27年には現在の病院の北東に新築移転する予定になっており、現在準備中です。総病床数病床は180床であり、内45床の回復期リハビリテーション病棟を持ち、地域に根ざした病院を目指しています。

院長 赤毛 義実



#### 社会福祉法人聖霊会 聖霊病院



東海地区唯一のカトリック病院として聖霊病院は、「命の始まりと終わり」を大切に、周産期医療（産婦人科、新生児医療）、終末期医療（緩和ケア、ホスピス）を重視しつつ、高齢者の救急医療、超急性期の後方支援に力を注いでおります。24年4月から、患者様へワンストップサービスを提供し、かかりつけ医、病病・病診連携の強化を目的として、医療連携室、SW、退院支援、医療メディエーターなどのスタッフがチームとなった『聖霊包括患者サポートセンター』の運用を開始しました。地域医療の一員として先生方の大切な患者さまに感動していただけるよう努力したいと存じます。皆様方の声が聞こえる病院であることを念頭に置き、今後ともご指導ご鞭撻を賜りますようお願いいたします。

院長 浅野 仁



### 教育

#### 社会人大学院生に朗報!

平成24年度より大学院博士課程のカリキュラムがマイナーチェンジされました。

- 1) 新たな講義科目(脂質/糖脂質代謝、内分泌異常、呼吸器疾患/呼吸管理、生体防御の分子医学、臨床薬学理論、疫学/統計学概論)を設けより広範囲な医学領域をカバー
- 2) 夏期集中講義の導入などの工夫をおこないました。

夏期集中講座では、4コマの講義を1日間でまとめて受講(1単位習得)することになります。集中的に体系的講義を受講することが可能となり、また午後6時30分からの講義を4週間にわたり受講することに比べ、臨床講座に所属する社会人大学院生にとり都合の良い制度となることが予想されます。

今後より充実したカリキュラムへのバージョンアップも考えています。より多くの方の大学院博士過程へ進学、研究面からの医学・医療への貢献を心より期待しています。

(博士課程カリキュラム担当:脳神経生理学 教授 飛田 秀樹)

## 研究者紹介



Norikazu  
Nomura

**野村 則和**(のむら のりかず) 心臓血管外科学分野(病院准教授)

専門:先天性心疾患、肺血管傷害・肺高血圧制御

先天性心疾患において肺血管発育不良やそれに伴う術後の肺高血圧、あるいは術前の肺血流増多による肺血管傷害は手術成績を悪化させる大きな要因の一つです。肺血管傷害のメカニズムは徐々に解明されこれらに対する治療・管理方法も近年進歩してまいりましたが、今なお制御困難な肺血管傷害、肺高血圧のため治療に難渋する患児が多数おられます。したがって手術成績の向上にはこれらの制御が不可欠であり、人工心肺段階での肺血管傷害抑制方法や肺血管に愛護的な手術手技、治療法の研究・工夫を重ねていきたいと考えております。

近年の論文:Ann Thorac Surg. 87:1619 (2009), Ann Thorac Surg. 14:267-9 (2008), Ann Thorac Surg. 85:1113-4 (2008), Eur J Cardiothorac Surg. 32: 937-9 (2007)



Atsuya  
Nishiyama

**西山 敦哉**(にしやま あつや) 細胞生化学(講師)

専門:細胞周期学

細胞が分裂する際には、娘細胞に遺伝情報のみならずエピジェネティクス情報を正確に伝達する必要があります。その異常は細胞のガン化、異常な発生・分化の原因となりますが、その詳細な分子機構には未だ不明な点が数多く残されています。そのため、我々は試験管内でDNA複製を再現することが可能である無細胞系を用いて、もっともよく知られるエピジェネティックマークの一つであるDNAメチル化の維持伝達機構について生化学的な解析を行なっています。これまで未解明だった問題について、一つでも多く解答が出せればよいなと思っています。

近年の論文:JBC 287(1):619-27 (2012), Genes Cells 16(6):728-39 (2011), Genes Dev. 25(2):165-75. (2011)



Sumiyo  
Yamashita

**山下 純世**(やました すみよ) 心臓・腎高血圧内科学分野(病院講師)

専門:高血圧

高血圧の診療における血圧情報は、通常、外来随時血圧が基準とされます。しかし、将来の心血管病発症リスクを推測するには、自由行動下血圧あるいは家庭血圧が有用であることが知られています。最近では、血圧変動性の重要性も注目されています。血圧値を診断・治療の指標としてだけでなく、予後マーカーとしてとらえた場合、いつ、誰が、どこで、どのように測り、得られたデータをいかに解釈すればよいのか、まだまだ疑問は尽きません。家庭血圧手帳を片手に外来を受診される患者さんに、“正しい血圧の測り方”について科学的根拠をもってご説明できるよう、地道に研究を続けたいと思っています。

近年の論文:Life Style Medicine 3(4):29-34(2009)Medicina 44(1):100-103(2007)  
名古屋市立大学医学会雑誌54(4):179-188(2003)J Cardiovasc Pharmacol 40(2):220-227(2002)



Hiromichi  
Takano

**高野 博充**(たかの ひろみち) 細胞生理学分野(助教)

専門:循環生理

主に膜電位測定技術と細胞内カルシウム動態の測定技術を用いて収縮張力や血管径変化を制御する機序の解明を試みています。血管は局所的な反応による収縮弛緩によっても血圧や血流分布を調節しています。この機構は血管を構成する個々の内皮細胞と平滑筋細胞ギャップ結合を介した、またはそれらの細胞が放出する液性因子を介した機構により連絡し合っており行われています。それを理解するには、分子生物学的な知見を元に、個々の細胞の動きと合わせてシステムとして血管を把握しなくてはなりません。この視点からのこれまでの研究で、その機構の臓器毎に大きく異なる特徴を見出してきました。こういった知見は臓器特異性のある薬物の開発などにつながると考えています。

近年の論文:J Urol. 185(6):2382-91(2011), Shock. 34(6):586-91 (2010), Microvasc Res. 78(2):169-73(2009)

病院局長のご紹介

名古屋市病院局長就任のご挨拶



名古屋市病院局長 山田 和雄

本年4月1日付で病院局長に就任しました。これまで経験したことのない行政職の責任者を務めており、教授職と兼務しつつ、全く異次元の日々を送っています。さて名古屋市立病院群はこれまで、明確なビジョンと必要な投資を欠いていたことから、平成10年代後半には存亡の危機に見舞われました。これを解決し発展させるべく、平成20年4月に公営企業体法が全部適用され、それまで健康福祉局にあった病院事業本部が独立して病院局となり、企業管理者として上田前局長が就任されました。それから4年間、皆様ご承知の通り必死の努力で市立病院の整理統合が行われました。その結果、来年春には東部医療センターと西部医療センターの2直営病院と、事業管理者化(公設民営化)した緑市民病院に統合されます。病床数も1554床から1298床にスリム化されます。私はこの4年間、外部経営委員会の委員長を務めさせていただき、この間の変化をつぶさに見てきました。また責任の一端を感じていました。そのため、次期病院局長就任のお話を頂いたとき、責任を果たすべきという強い気持ちでお受けしました。

すでに上田前局長が今後の方向性を示されましたので、その線に沿って市立病院群を発展させるのが私の任務ですが、守山市民病院の民間譲渡、東部医療センター救急外来棟の工事と病棟の全面建て替え、西部医療センターのさらなる発展と陽子線治療センターの起動、緑市民病院の活性化など、まだまだ解決すべき問題が山積状態です。今後、市立病院が市民に信頼され働きがいのある高機能病院になるため、瑞医の読者諸兄のさらなるご支援をよろしくお願いいたします。

名古屋市病院局長 山田 和雄

M3基礎自主研修優秀発表者への学会発表援助制度が新設!!

ご存知のM3後期に行われる基礎自主研修。2月下旬には発表会を開催、講座代表の教員の審査点および学生の投票点により優秀発表者が選出。H23年度優秀者に谷口葉子さん(生理学1)、加藤 綾さん(生理学2)、春日部こずえさん(病理学1)、市川靖久くん/玉越由佳さん/濱田一央くんグループ(病態モデル)の4組が栄冠を獲得。

本年度より優秀発表が学会/研究会で発表する際には交通費と宿泊費を援助することが決定(上限有り)。実際に日本平滑筋学会総会で発表して谷口さんに感想を聞いた。(文責:飛田 秀樹)



年齢制限なしで選ばれた10の候補演題からみごと優秀演題賞に選ばれました

「モルモット胃ペースメーカー領域の同定」をテーマに挙げ学会発表に行ってきました。学部生ながら学会参加の機会を与えていただき、有意義な時間を過ごせたと感じています。

生理学1(細胞生理学)教室では血管や消化管などの生理的機能について観察・実験しています。時間のかかる研究ですが、よい結果を得た時は研究の醍醐味を実感できます。今後この経験を生かし励んでいきたいと思ひます。(M4 谷口 葉子)



学会で発表する谷口さん

# 02 時の人 People in the news

## 第53回川澄祭「<sup>わ</sup>輪<sup>しよ</sup>っ背負い～みんな ハッピー かわす みこし～」が始まります! (11/2～4) ～実行委員長M4森 義晴 さんにききました

第53回川澄祭実行委員長を務めます医学部4年の森義晴です。今年も川澄祭が11月2日から3日間開催されます。まずこの場をお借りして、御支援して頂いた同窓会、先生方をはじめ多くの方々に厚く御礼申し上げます。

第53回川澄祭のテーマは「<sup>わ</sup>輪<sup>しよ</sup>っ背負い(しよい)～みんな ハッピー かわす みこし～」です。かわすみこし(川澄の神輿)を担いで、わっしよいと元気よく川澄祭を楽しむことで、みんなの輪を広げようという意味を込めています。と、先生方にも挨拶に伺った後で過去の川澄祭とテーマが被ってしまったことを知り自分の下調べの弱さを痛感しましたが、面倒くさいことは考えずに、とにかく川澄祭の3日間を生徒だけではなく来場して下さる全ての方々に楽しんで頂けることのみを考えております。

ところで、私は今、医学部サッカー部で幹部として活動していますが、その中で問題が生じた時にはどうしたら解決できるのか、リスクを回避し、団体での活動を円滑に進めていくにはどうすればいいのか日々悩んでいます。それは独りでは決して出来得ないことで、学園祭という規模にもなれば更に難しくなります。仲間達と話し合い、意見を出し合うことがなければ学園祭の成功はありえません。私達は将来、医療従事者として働くこととなりますが、チームとして互いに連携して作業を行う能力は必要不可欠なものだと思います。恐らく私は歴代の川澄祭実行委員長の中で最もリーダーに向いていないかもしれませんが、川澄祭を運営していくなかで少しでも変わっていきたくらいと思っています。そして川澄祭に関わる生徒達皆がチームというひとつの輪として機能していくために必要なものを掴めることを願っています。

私たちが日々学んでいる成果を地域の方々に少しでも還元出来ればいいです。  
川澄祭実行委員長 M4 森 義晴



第53回川澄祭実行委員会メンバー、わっしよい隊です。  
前列左端で座っているのが森君。皆様のご来場お待ちしております!

### ★主な企画★

Web site : <http://kawasumisai2012.hotcom-web.com/>

- 11/2(金):前夜祭
- 11/3(土):秋のオープンキャンパス、骨髄バンクチャリティイベント、ダンスコンテスト、プロレス、Mommy Tommy(擬似妊婦体験)、研究室対抗クイズ選手権
- 11/4(日):川澄コスプレサミット、ビンゴ大会、後夜祭
- 全日企画:模擬病院、クロスキャンパス企画

## 雲上の診療所～蝶ヶ岳ボランティア診療班～ 活動15周年を迎えた診療班の代表M3 石田 真一さんにききました

蝶ヶ岳ボランティア診療班の学生代表の医学部3年の石田真一と申します。

蝶ヶ岳は、北アルプスにある標高2677mの山です。中部山岳国立公園内にあり、山全体が長野県に属しています。西側に梓川を挟み、穂高連峰や槍ヶ岳といった日本有数の山々を眺めることができる絶好の眺望台となっており、毎年多くの登山者が訪れます。

私達診療班は、毎年7月中旬から8月下旬までの約40日の間、蝶ヶ岳山頂にあるヒュッテの診療所で活動しています。学生は4、5人で班を構成し、開所期間中は4泊でローテーションを組み常時山頂に滞在しています。本診療所は無料診療であり、開所期間中には毎年約150人の患者さんが来られます。診療所に来られる患者さんの多くは、急性高山病、外傷です。しかし、時には重症の患者さんが来られることもあり、多いときには1日に10人以上の患者さんが来られます。

また、予防的介入の一環として、夜にはヒュッテの食堂をお借りして雲上セミナーを行い、高山病についての知識の普及をし、登山者の方へ高山病予防を促しています。他にも、高山病についてのポスターを掲示し呼びかけを行ったりして、まず診療所の存在を知ってもらうとともに、登山者の方が来診しやすい環境を作れるよう心がけています。

さらに、疫学調査として、「登山中における尿中ケトン体と疲労感の関係」についての調査を毎年行っています。

本診療班は、医師、看護師をはじめとする、多くのスタッフの方々のご協力、ご参加をいただいております。学外からも多くのスタッフの方々にご参加いただいております。今年で15周年を迎えることとなりますが、今後とも蝶ヶ岳ボランティア診療班をよろしく願いいたします。

M3 石田 真一



今年の壮行会の様子。教職員、学生だけでなく、OB・OGも毎年参加します。

名古屋市立大学蝶ヶ岳ボランティア診療班HP:  
<http://www.med.nagoya-cu.ac.jp/igakf.dir/chyogatake.htm>  
↑活動の詳細はこちらから。

山頂の診療所。  
夏の間、交代で登山者の健康と安全を守ります。

### 名市大病院のチーム医療 第3回 緩和ケアチーム

わが国は2人に1人ががんに罹患し、3人に1人ががんで死亡する時代を迎えています。がんの患者さんやご家族は、その闘病生活を通じて身体的・精神的・社会的・スピリチュアルなさまざまな苦痛を経験されます。通常はがんの治療にあたる医療チーム(主治医や病棟看護師など)がそれらの苦痛緩和にあたりますが、中には対応の難しいケースもあります。そのような際に医療チームの手助けをし、時には直接診療にあたるのが緩和ケアチーム(Palliative Care Team:PCT)です。

世界保健機関(WHO)の定義では、「緩和ケアとは、生命を脅かす疾患による問題に直面している患者とその家族に対して、疾患の早期より痛み、身体的問題、心理社会的問題、スピリチュアルな問題に関して適切な評価をおこない、それが障害とならないように予防したり対処したりすることで、QOLを改善するためのアプローチである。」と定義されています。ひと言でいいますと、がんなどの病気に伴うつらい症状を可能な限り和らげ、患者さんがよりよく生活できるよう援助する医療です。近年の医療では、病気の治癒や生存期間延長のみならず、患者さんやご家族の生活の質(QOL)向上が重要視されつつあり、緩和ケアにも関心が集まっています。

当院のPCTは2007年6月に結成され、少しずつその活動を広げ、2009年4月には緩和ケア部(病院中央部門)が誕生しました。現在の緩和ケア部では、緩和ケアの専門家である日本緩和医療学会暫定指導医、がんの患者さんのこころのケアにあたる精神腫瘍医、がん看護を専門に学んだ看護師、薬剤師、臨床心理士など様々なスタッフが活動しております。必要に応じてソーシャルワーカーや栄養士などが診療に加わったり、褥瘡対策チームや栄養サポートチーム(NST)など他の医療チームとも協働します。緩和ケアを必要とする患者さんの苦痛は多方面にわたるので、多くの医療スタッフの力を上手に結集することが重要なのです。その他、緩和ケア教育や普及啓発活動なども大切な業務で、緩和ケアに有用な資料(症状緩和マニュアル、各種の症状評価票など)の整備、病棟カンファレンスへの参加、院内研修会開催などを行っています。また、積極的に地域の医療機関と連携をはかっており、中でも東部医療センター守山市民病院緩和ケア病棟とは、診療支援、スタッフの相互交流など密接に連携しています。

疼痛、呼吸困難、倦怠感などの身体症状や、不眠、不安、落ち込みなど気持ちの症状などで患者さんがつらい思いをされている際には遠慮なくご相談ください。がんの種類や病期に関わらず、また現在がん治療中かどうかに関わらず、患者さんがお困りの症状やご家族のつらさ少しでも緩和することができるよう、PCTは最大限努力いたします。入院の場合は随時、外来の場合は月曜日午前には緩和ケア外来として、あるいは主診療科診察日に合わせて他曜日でも対応いたします。

当院はがん診療連携拠点病院に指定されており、われわれはよりよい緩和ケアを広く提供し、普及させていくことを使命のひとつと考えています。今後、さらに多くの患者さんやご家族に、より良い緩和ケアを提供できるよう努力を重ねていく所存です。

文責 緩和ケア部 坂本雅樹  
(消化器外科学 病院講師)

1列目左から坂本雅樹、  
奥山徹(緩和ケア部 副部長)、  
明智龍男(緩和ケア部 部長)、  
古賀和子(PCT専従看護師  
がん看護専門看護師)



### 地域貢献・国際交流・地域活動

#### 韓国ハルリム大学から留学生を迎えました!(7/2~7/27)

学術交流協定に基づく学生交流として、ハルリム大学5年生Son, Jee Hee(ソン ジヒ)さんが、1ヶ月間の臨床実習に参加しました。

At first, it was really nice opportunity for me to have experience in Nagoya City University.

Now I arrived well in Korea and I put my report about my 4 weeks program. I chose to study at the department of gastroenterological surgery because I want to be a surgeon I have chance. It was my honor to study at NAGOYA CITY UNIVERSITY HOSPITAL for 1 month. Everybody in hospital, especially professors and students, was really kind to me. At first, I felt a little bit nervous because it's my first time to study in foreign hospital. However, I was happy to be here and satisfied so much thanks to doctors and students here.

It was nice experience for me to do some procedures, for example, suture and tie during the operation. I could experience not only the things related to medicine, but also many things about JAPAN and real life in Japan. I also felt a lot of differences between Korea and Japan, too. It was really nice time for me to join some lectures with the other students of NAGOYA CITY UNIVERSITY and I thought the students are studying very hard so I decided to study harder to catch up with them. Also, I could see many operation that I have some interests. In addition, I could listen some lectures in the academic meeting with physicians. It was really nice opportunity for me. Not only gastroenterological surgery, I could watch some pulmonary operation, too and I enjoyed roundings with doctors and students.

Thank you, all of doctors at the department of gastroenterological surgery of Nagoya City University for your help, especially Prof.TAKEYAMA, Associate Prof.KIMURA and Dr. ANDO. I think many experiences that I went through here will be very helpful in the future. I don't know how to show my deep appreciation to you for giving me this wonderful opportunity. Thank you so much again. I hope to see the students from NAGOYA CITY UNIVERSITY at our university hospital someday. Thank you.  
Son, Jee Hee (Hallym univ. 5th grade)

名市大で実習できたことは大変素晴らしい経験となりました。

私は将来、外科医を目指しており、消化器外科での実習を選択しました。名市大病院で1ヶ月間学ぶことができ大変光栄です。病院では医師も学生も大変親切にしてくださいました。当初は、外国の病院での実習は初めてということで不安に思っていたのですが、今では市大の皆様へ大変感謝しています。

実習では、縫合の様なくつかの処置もさせていただき、良い経験となりました。また、消化器外科のみならず呼吸器外科の手術も沢山見学させていただいたほか、症例検討会などにも参加し、勉強する機会をいただきました。名市大の医学部生とも、一緒に講義に参加し、彼らが熱心に勉強しているので、彼らについていくため一生懸命勉強しようと思いました。

また、医療に関係した事柄だけでなく、「日本」についても学ぶことができ、実際の日本人の生活に触れることで、韓国との違いも多く感じました。

お世話になった消化器外科の全ての先生方、とりわけ竹山教授、木村准教授、安藤医師に感謝申し上げます。ここで得た沢山の経験が必ず将来役立つだろうと思います。このような素晴らしい機会を与えてくださったことへの深い感謝をどのように表現してよいかわかりません。本当にありがとうございました。いつか、名市大生と私の大学でお会いできることを楽しみにしています。  
ソン ジヒ(ハルリム大学5年生)



◀緊張の初日。  
藤井研究科長と

5年生と、  
中央、ケーキを持って  
いるのがソンさんです。▶



お世話になった  
消化器外科の先生方と。  
ありがとうございました。

#### 桜山の懐かしいお店紹介-第13回『タルボット』さん

大学から歩いて3分、パスタが美味しい「タルボット」を紹介します。ランチは、スパゲッティにミニサラダとスープがついて1000円前後です。私のお勧めは、ソーセージ・ペペロンチーノとボンゴレ・ピアンコです。パスタのゆで加減、塩加減が絶妙です。パスタをゆでる時はミネラルの多い岩塩を使うことが基本とのことで、オリーブオイルにもこだわっておられます。スキーとサーフィンが大好きなマスターのかずさんは、いつも真っ黒に日焼け。自転車やオーディオなどいろんなことにこだわりを持っています。夜は、アクアパッツァやタンの煮込みなど豊富なアラカルト料理が楽しめます。もちろん、お得なコース料理もあります。ワインも手頃な価格で美味しいものがそろっており、お店のじゅん君にリクエストすると、好みのワインを勧めてくれます。眼科では毎年、ボジョレー・ヌーボーの15リッターの樽を持ち込んで、パーティーを行っています。飲み終わった樽がお店においてあるので、探してみてください。

文責:視覚科学 教授 小椋 祐一郎



パスタが  
おすすめ



マスターと  
看板犬のテップ



この看板が  
目印です

### “The Single Petal of a Rose” – 卒業生の作品をご紹介します

#### ジャズと海と私

皆さんこんにちは。2004年卒業の浜崎航です。卒業からはや8年、ジャズのサクソプレイヤーとして卒業以来、東京を中心にジャズクラブ、ジャズフェスティバルなど全国で演奏活動をしております。年のうち三分の一はツアーにでて演奏しています。思えば、日本の県はすべて行きましたね。ツアーは過酷ですが、色んな場所で演奏して、沢山のひとと出会い、日本の様々な風景を眺め、その土地の美味しいものを頂いたりする楽しみもありますし、時には同窓の方が見に来てくださったりするのは嬉しいことです。

今年の2月には通算10枚目となるCDを発売しました。“The Single Petal of a Rose”このアルバムはデュークエリントンの音楽にスポットを当て、“Take the A Train”のような有名曲から“Low Key Lightly”のような隠れた名曲まで、ジャズの歴史そのものである偉大なエリントンの音楽の魅力を表現したアルバムです。共演したピアニスト片倉 真由子は、日本人で初めてニューヨークのジュリアード音楽院のジャズ科を卒業した若手でもっとも注目を浴びるピアニスト。今年のコンコードジャズフェスティバルにも出演しました。

2011年、日本を襲った大地震によって未曾有の被害が出ました。私も被災地を訪れ、その被害の甚大さに愕然としました。特に仙台で生まれ育った片倉の受けたショックは大きく、私も復興を応援する決意を新たにしました。

このアルバムに収録した“Come Sunday”に込めた祈りが天に通じますように。1964年新潟地震の際、偶然にも来日していたエリントンは、地震の被害を知り、日本公演の次の予定のハワイ公演をキャンセルして、東京で震災に対する募金を募るコンサートを行い、収益金全額を寄付して



左から2人目が本人

ています。なんとも心温まる話ではありませんか。今後の演奏予定ですが、2012年9月には50年以上続くアメリカの権威あるモンタレージャズフェスティバルに私の率いるENCOUNTERというグループで出演致します。大変光栄なことに、日本からのバンドは私のバンドだけということで、日本男児の大和魂を炸裂させてこようと思っております。応援よろしくお願い致します。写真は去年ENCOUNTERで韓国に招かれて演奏したときのものです(左から2人目が本人)。その他演奏のスケジュール、CDの情報につきましては、私のホームページwatarujazz.com(浜崎航で検索していただいてもすぐ出て参ります)をご覧ください。頂ければ幸いです。余談になりますが、近年私はスキューバダイビングのインストラクターとしても演奏活動の合間に働いております。海の魅力に取り付かれ、ジャズをやっていないときはいつも海にいらしています。(文責:浜崎 航)



CDジャケット

### 学びの秋です

### 市民向け講座のご案内

#### 平成24年度健康科学講座 オープンカレッジ 第3期「感覚受容のメカニズム と感覚器障害」

平成24年11月9日～  
平成25年1月18日の金曜日  
(11/23・12/28・来年1/4を除く)の全8回  
午後6時30分～8時  
医学研究棟11階講義室A  
抽選で80人 受講料8,000円  
申込:往復はがきかEメール  
(応募動機記入)  
問い合わせ先:医学部事務局  
TEL:052-853-8077  
igakubuoc@sec.nagoya-cu.ac.jp  
10/19(金)消印有効。

#### 平成24年度市民公開講座 「名古屋市立大学が市民に 提供できる最新医療」

平成24年10月27日(土)  
午後1時より  
会場:医学研究棟11階講義室A  
受講料500円(当日参加可)  
「腹腔鏡手術からロボット支援へ～  
前立腺癌低侵襲治療の最前線」  
「外来化学療法は今」  
「トモセラピーについて」  
問い合わせ先:事務局学術課  
TEL:052-853-8308

#### 第11回市民公開講座 「炎症性腸疾患の治療を めぐって」

平成24年12月16日(日)  
午後1時～3時  
会場:名古屋市立大学病院  
3階大ホール  
参加費無料(先着300名様)  
申込み不要  
(当日、直接会場にお越しください)  
問い合わせ先:消化器・代謝内科学  
(担当:谷田)  
TEL:052-853-8211

#### 医療・保健学びなおし講座 秋期講座開講 平成24年秋期開講

「発達障害を学ぶ:医学的理解  
から教育/療育へ」  
「画像診断・放射線治療・IVRを学ぶ」  
「Birth Tour 2012-安全な  
お産を目指して」  
を開講しました。  
詳細はHPをご覧ください。  
http://www.med.nagoya-cu.  
ac.jp/w3med/manabi/  
問い合わせ先:  
医療・保健 学びなおし講座事務局  
TEL:052-853-8078

### 【医学振興】寄附金ご協力をお願い

本学は、平成18年4月、公立大学法人として新たな一歩を踏み出し、教育・研究活動をより一層活性化させるための財政基盤の確立を目的として、同年8月「公立大学法人名古屋市立大学振興基金」を設立いたしました。本学に課せられた使命を着実に果たしていくためには、優れた教育・研究・診療環境の整備、充実が必須であり、広く皆様からの財政的ご支援をお願いしてまいりたいと存じます。

なお、これまでに寄せられたご寄附は、既に研究棟の改修や身障者用トイレの設置等、環境整備のために有効に利用させて頂いております。

皆様におかれましては、この基金の趣旨をご理解いただき、「市立大学振興基金(医学振興)」に、ご賛同賜りますようお願い申し上げます。

※寄附金については税制上の優遇措置が設けられております。詳しくは、下記担当までお問い合わせください。

問合せ先 ご賛同いただける方にはご案内をお送りします。

名古屋市立大学 医学部事務局 市立大学振興基金【医学振興】担当  
TEL:052-853-8077(土・日・祝日を除く9:00～17:00) FAX:052-843-0863

広報誌:瑞医(ずい)

発行:名古屋市立大学大学院医学研究科・医学部  
〒467-8601 名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1  
TEL(052)853-8077 FAX(052)842-0863

URL <http://www.nagoya-cu.ac.jp>

※次号の発行は平成25年1月下旬発行予定です。[年3回 1月・5月・9月]

我こそは  
通信員!

広報誌「瑞医」へ最新の話題をお届けして下さるサポーター大募集!「今、当講座ではこんな若手が頑張っています!」など広報委員会へ取り上げてほしい話題を教えてください。教職員・学生、身分は問いません。我こそは、という方は、igakujimu@sec.nagoya-cu.ac.jp または医学部事務局 広報担当まで